

2021年9月号

馬場川新聞

あなたも「めぶく。」しませんか？



ゆるく つながる

大好評！初めてのまちづくりセミナー 第3回は「路上セミナー」で開催！

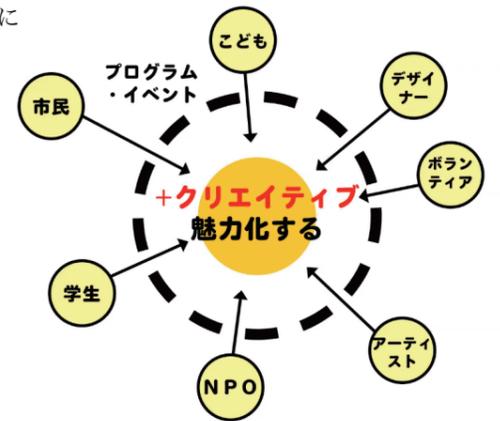
2021年8月1日、馬場川通りアーバンデザインプロジェクト準備委員会の参加者にお集まりいただき、今回が最終回となる「初めてのまちづくりセミナー」の3回目が実施されました。会場はなんと中央通り商店街、「路上セミナー」で開催。感染症対策と暑さ対策にも考慮した会場とオンラインでのハイブリット形式で行い、計54名もの方々にご参加いただきました。そして今回は、デザイン都市をまちづくりに掲げる兵庫県神戸市からデザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）のセンター長 永田宏和氏をお招きし、まちづくりソフト編として「クリエイティブで社会課題を解決する」というテーマでご講演いただきました。



地域の人たちが互いに仲良くイキイキ暮らす元気なまちになることを、永田氏は「地域豊饒化」と呼びます。そのためには3つのタイプの「人」が必要と言います。まず「土の人」。地域に根差し活動し続ける存在です。つぎに「風の人」。その地域に新しいイベントなど活動の「種」を運んで、刺激を与える存在です。最後が「水の人」。地域に寄り添い「種」に「水」をやり続けるように中間支援をしてくれる存在です。しかし実は地域には「風の人」がいないため「いい種」がなくて困っていると言います。



そこでセミナーでは、永田氏が「いい種」をつくる2つの極意を伝授。第1の極意は「不完全プランニング」。完全にプランニングされたイベントは主催者と参加者に分かれてしまいがちですが、不完全であれば主催者と参加者の線引きが曖昧になり主催者であり参加者でもある状況となります。つまり、イベントのプログラムに参加者が主催者のように「関われる」ことで、そのプログラムが「みんなのもの」となり、一過性に留まらずに地域に定着すると言います。そして第2の極意は「+クリエイティブ」。それはイベントのプログラムを、面白そう、楽しい、美しい、ワクワクすると形容されるように、とにかく魅力化することです。さらにセミナーでは、たくさんの事例もご紹介いただき、90分があつという間に感じるほど充実した内容になりました。会場でご参加の皆さんは、吹き抜ける風を感じ、街並みを感じ、通る人たちの物珍しそうな視線を感じながら、貴重なお話に興味津々で耳を傾けていらっしゃいました。



“水”の人

その土地に寄り添い、種に水をやり続ける存在。中間支援的存在。

“風”の人

その土地に「種」を運ぶ、刺激を与える存在。



“土”の人

そこに居続ける存在。しっかり根を張り、活動し続ける存在。



初めてのまちづくり、ワークショップの成果とは？

初めてのまちづくりワークショップでは、前半1～3回でアイデアを出し、後半の4～6回で具体的な施策案をつくる予定です。7月と8月に行われた前半1～3回目は、勉強会として専門家によるセミナーを受講してから、アイデア出しのためのワークショップを行いました。セミナーで刺激を受けた皆さんからは、さまざまな視点でアイデアが出されました。

第1回 ワークショップのまとめ

新聞8月号でご報告した第1回では「馬場川のありたい姿」に関して148個のアイデアが出されました。それらの傾向をみると、ポジティブな要素としては趣のある川や樹々などの「景観」、ガス灯や80年代ブランドストリートだった頃の「印象」、よく足を運んだ「店舗」に関心が集まりました。一方、ネガティブな要素としては歩道の狭さ、車の交通量の多さの「交通」がありました。さらに別の視点で整理してみると「都会の中の自然」、「たまたま通りかかった時にひと休み」、「散歩のついでにふらっと立ち寄りしたいお店」、「多世代が交流できる接点」としての4つの「場」が見えてきました。

馬場川のありたい姿

マチナカ	自然	ひと休み、リラックス	ふらっと立ち寄り店	交流できる接点
------	----	------------	-----------	---------



第1回



第2回



第3回

ゆるくつながる。

第2回 ワークショップのまとめ

第2回はセミナーのあと予定していたワークショップが豪雨で中止になり、後日オンラインで2回に分けて実施されました。「自分」を主語に「やってみたいこと、そのために必要なモノ」の意見を出し合い、合計90個のアイデアが出されました。方向性を分類すると「手軽に」など「ちょっと利用」したい、「ゆったり」など「リラックス」したい、またSNSのような「広く弱いつながり」をリアルの中でも求めている傾向がみられました。「やってみたいこと」では、「ゆるい関係性」「ゆったりとした時間」の2つのキーワードが見えてきました。一方、「そのために必要なモノ」では、テーブル・ベンチなどストリート家具に代表される「道具」、お店や展示をするためのフリースペースに代表される「場所」、またペットと一緒に楽しむような「目的」としての、「道具」「場所」「目的」という別の切り口を持った3種の「場づくり」が必要であることがわかりました。

馬場川で自分がやりたいこと

ゆるい関係性	ゆったりとした時間	「場」の提供	場所	道具	目的
--------	-----------	--------	----	----	----

第3回 ワークショップのまとめ

第3回は今号一面でご紹介した「路上セミナー」のあと、場所を中央公民館に移して行われました。3回目となる今回は参加者の皆さんの視点を上げて、「社会課題を解決する取り組み」というテーマで意見を出し合い、合計30個のアイデアが出されました。セミナーに刺激されたのか「子育て」や「次世代教育」に関するアイデアが多く、少子高齢化のなか子育て中の親世代が直面している不安など参加者共通の社会課題が最大の関心事であることがわかりました。また、具体的に馬場川で実践できそうなこととしては、子供が安全に遊べる「歩行者天国」という案が複数出され、近隣施設であるアーツ前橋や子ども図書館と連携して歩行者天国を活用したイベントやワークショップをやりたいという意見も出されました。このアイデアは市が目指す「ウォークアブル」なまちづくりとも合致することから、この秋に「社会実験」として取り組むこととなり準備が進められています。

社会課題解決につながること

子育て、次世代教育	歩行者天国	アートワークショップ	イベント、出店スペース
-----------	-------	------------	-------------

前半3回を通して見えてきたこと

1～3回のワークショップを総合すると、1つのキーワードが見えてきました。それは、目的を同じにする人々と気軽にコミュニケーションしたい、つまり馬場川という「場」で「ゆるくつながる」という出会いを求めているのではないかとことです。そして「つながる」ためには何らかの媒介がなければなりませんので、「○○○で、つながる」という「テーマ」も必要になります。できるだけ多くの接点をもたらすものとしてワークショップの中で関心が高かったもの、第2回で出た「ペット」、第3回で出た「キッズ」を第1期準備委員会のテーマとして選んでみました。3つ目のテーマは、フリーテーマで参加者が出したアイデアの中から選んでいただきます。初めてのまちづくりワークショップの後半、4～6回まではテーマごとのグループに分かれて「社会実験」に向けた取り組みを具体化していきます。馬場川でワクワクする新しい出会いが生まれる、そんな社会実験を準備委員会は目指しています。初めてのまちづくりは始まったばかり。今からでも遅くはありません。皆様のご参加をお待ちしております。



プロジェクトTシャツも準備中!

ゆるく、つながる。

いつもの学校や会社、地域のつながりではなく、馬場川通りに、ふらっと集まった人達。

子供が好きな人、ペットが好きな人、お酒が好きな人。

新しい出会いの不安もあるけど同じ趣味や嗜好だから、すぐに気があう。

名前も住所も知らないけど、打ち解けられる適度な距離感を持った関係。

そんな出会いが生まれる通りにしよう。

